

『全国学力・学習状況調査』の結果

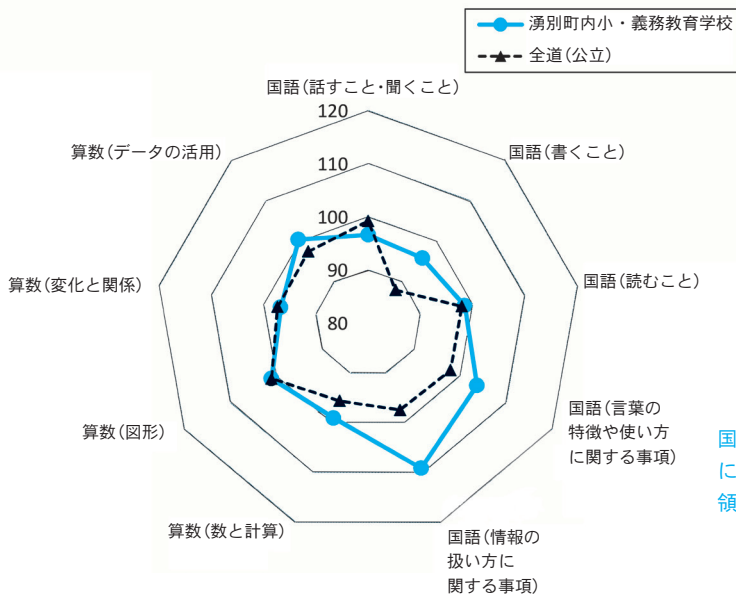
この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに、教育施策の成果と課題の検証・改善、教育指導の充実・改善を図るため、小学校・義務教育学校6年生と中学3年生・義務教育学校9年生を対象として、文部科学省が平成19年度より実施しているものです。

令和5年度は国語、算数・数学、英語（中学のみ）の3教科で実施されました。調査結果から見た湧別町の子どもの様子について、その概要をお知らせします。（※理科・英語は3年に1度の実施となっています）

湧別町内 小学校・義務教育学校 の状況および学力向上策（学校数：6校）

【教科全体の状況】

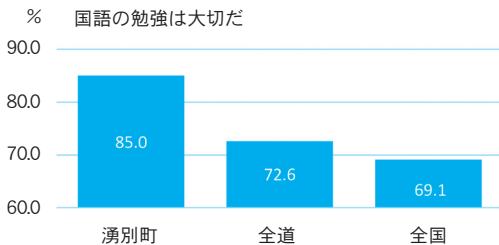
教科の領域別に **全国を100** とした場合の全道および湧別町の状況をレーダーチャート（グラフ）で示したものを（湧別町の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



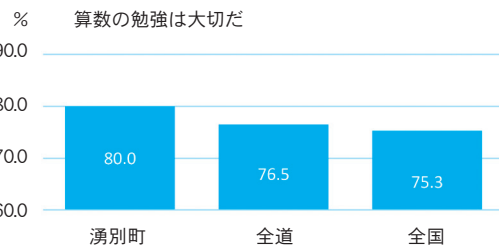
国語（言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項）、算数（図形、データの活用）の2教科4領域で全国・全道平均を上回りました。

【児童 質問紙調査】

《国語》

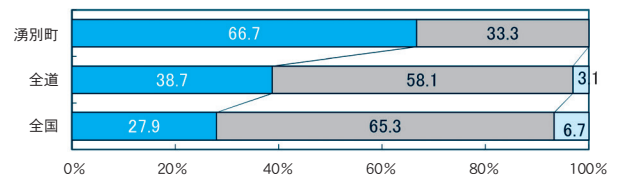


《算数》

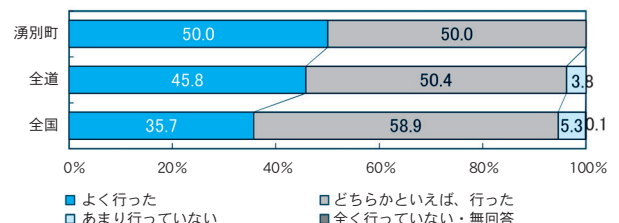


【学校 質問紙調査】

《国語》 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行った



《算数》 具体的なものを操作するなどの体験をともなう学習を通して、数量や図形について実感をともなった理解をする活動を授業で行った



【分析】

●国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国・全道を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

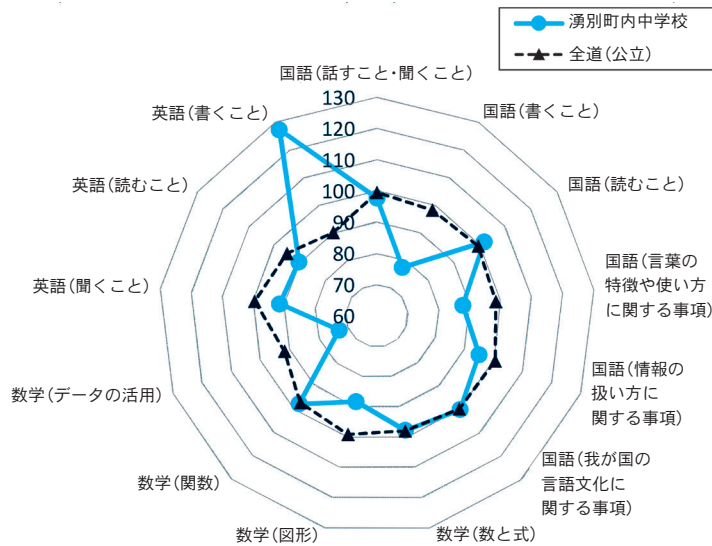
●算数の授業において、具体的なものを操作するなどの体験をともなう学習を通して、数量や図形について実感をともなった理解をする活動を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国・全道を上回るとともに、算数では、「図形」「データの活用」の領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。



湧別町内 中学校・義務教育学校 の状況および学力向上策 (学校数：3校)

【教科全体の状況】

教科の領域別に **全国を100** とした場合の全道および湧別町の状況をレーダーチャート(グラフ)で示したものを(湧別町の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

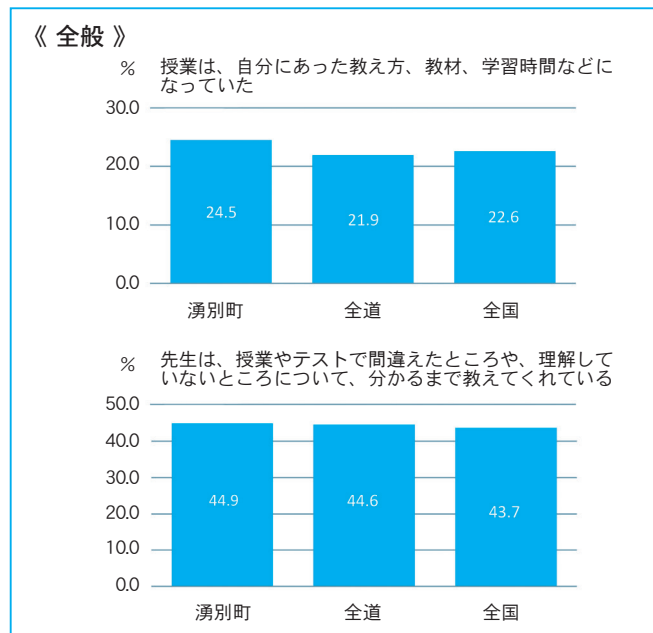


【湧別町の学力向上策】

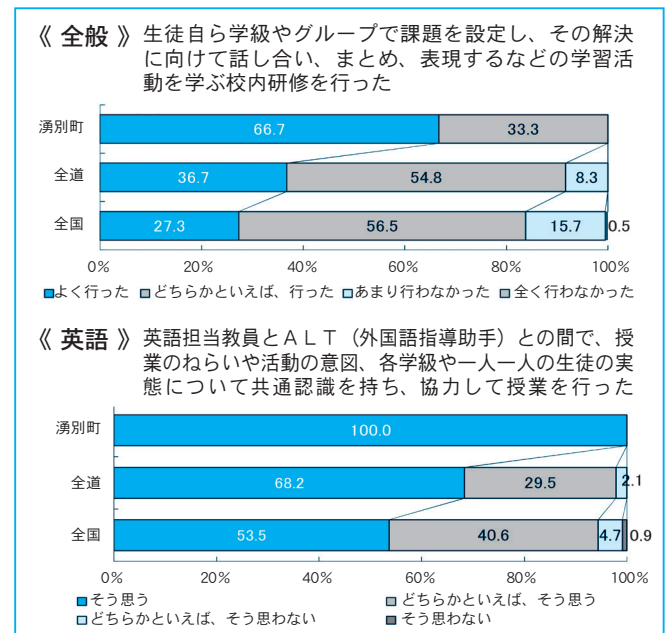
- 湧別町型学校力向上事業に基づく授業公開や研修事業の実施
- 全国学力・学習状況調査などを活用した授業改善や学習習慣の確立
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学び合いの授業やICT端末の効果的な活用
- 学力向上支援員や特別支援教育支援員などの配置の充実
- 長期休業を活用した高校生ボランティア学習サポートの実施
- 学校図書館支援事業による読書活動の推進

中学校では国語(読むこと、我が国の言語文化に関する事項)、英語(書くこと)で全国平均、数学(関数)で全道平均を上回りました。

【生徒 質問紙調査】



【学校 質問紙調査】



【分析】

● 生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、授業改善が図られ、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国・全道を上回るとともに、国語では、「読むこと」の領域および「我が国の言語文化に関する事項」で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

● 英語の授業において、英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態について共通認識を持ち、協力して授業を行ったことにより、授業改善が図られ、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した生徒の割合が全国・全道を上回るとともに、英語では、「書くこと」の領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。